

道徳通信かがわ

第33号

平成30年10月5日（金）

香川県教育委員会事務局

義務教育課

さぬき市立志度小学校で先月行われた松岡清美先生の実践です。『一さつのおくりもの』（東京書籍、第3学年）という教材で、「親切・思いやり」について考える授業でした。

お話の中で、登場人物のクマタは、お気に入りの絵本を大水害で大変な思いをしている村の子どもたちに贈ろうとします。しかし、その絵本はやはり手放したくない大切な物。迷った末、クマタは決心し、贈ります。すると、しばらくして、それを受け取ったウサギ・ササエから感謝の手紙が届くのでした。

この思いやりの心が伝わっていく様を、授業者は板書で、そして板書を越えて表しました。

心が見える ー学力向上モデル校の授業からー

授業の終盤。授業者は、登場人物同士で思い合う心のつながりや広がりを書き板にまとめた上で、それは、自分たちの目指す学級目標「やさしさいっぱい思い合い」に向かっていることなんだということ、大きな矢印で示しました（右写真）。



【板書で示した「心のつながり」はみんなの中にも】



【板書の図を学級目標につなぐ】

さらに、友達に親切にされたときの気持ちを綴った子どもの感想を紹介し、「今、親切にした人も、された人もいい笑顔になったね。優しい気持ちが、AさんからBさんに届いたんだね。」と言いながら、心の動きを

矢印で表しました（上写真）。見えないはずの気持ちの動きが見えるようでした。

道徳の授業でよく取り上げられる『花さき山』に、次の一節があります。

けれども あやは、そのあと ときどき、「あっ！ いま 花さき山で、おらの花が
さいてるな」と おもうことが あった。
(斎藤隆介『花さき山』より)

この学級の子どもたちも、これからの生活の中で思うのではないのでしょうか。

「あっ！ いま ぼくの思いが、友達に 届いているな」と。